



第2期高知県教育振興基本計画の概要



平成28年3月
高知県教育委員会

基本計画の構成

この基本計画では、知事が定める教育大綱を踏まえ、

2 つの**基本理念～目指すべき人間像～**を実現するため、

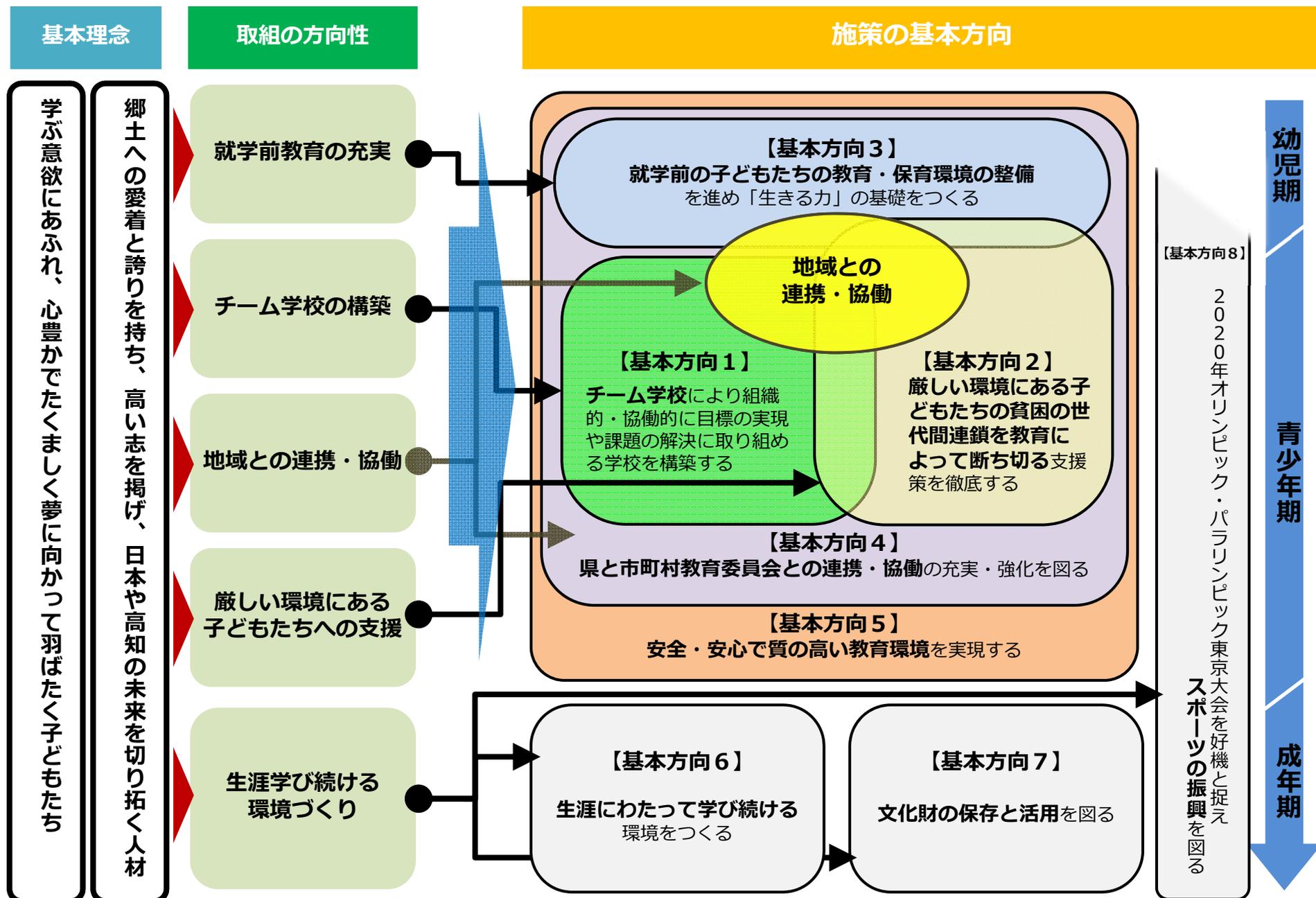
3 つの**基本目標**により成果を検証しながら、

5 つの**取組の方向性**のもと、

8 つの**施策の基本方向**に沿った施策を推進します。

計画期間は、教育大綱に合わせ、**平成28年度**から**平成31年度**までの**4年間**とします。

基本理念（目指すべき人間像）を実現するための取組の方向性・施策の基本方向 【第2期高知県教育振興基本計画の体系図】



基本理念（目指すべき人間像）と基本目標

目指すべき人間像

学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

- 知** 基礎的・基本的な知識・技能、これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲
- 徳** 社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性
- 体** 生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣

➡ **知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力**を、家庭の保護者や地域、学校、市町村教育委員会、県教育委員会などが、それぞれの役割や責任を意識しながら力を合わせ、社会全体で子どもたちに身に付けさせる必要

郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

- 我が国では、先の見えない変化の激しい時代の中で、課題に挑戦し、未来を切り拓く人材が求められている
- 特に少子・高齢化が著しい本県が今後も活力を維持・向上していくためには、郷土への愛着と誇りを大切にしながら、グローバルな視点を持ち、高い志を掲げ、産業・経済や地域福祉、さらには、文化、コミュニティなど多くの分野で地域の将来を担う人材が求められている

取組の状況を測る基本目標を設定

5つの

取組の方向性

- ①チーム学校の構築
- ②厳しい環境にある子どもたちへの支援
- ③地域との連携・協働
- ④就学前教育の充実
- ⑤生涯学び続ける環境づくり

と8つの

施策の基本方向

で基本理念の実現を目指す

知

- 【小・中学校】
- 小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
- 中学校の学力は全国平均以上に引き上げる
 - ※H27全国学力・学習状況調査結果（全国平均との差）
 - 小：国A +3.4 国B +1.6 算A +1.8 算B -0.4
 - 中：国A -2.5 国B -2.9 数A -4.5 数B -5.4
- 【高等学校】
- 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる
 - ※H27学力定着把握検査結果（高3年4月）：30.4%
- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする
 - ※H26年度卒業生に占める進路未定者の割合：8.0%

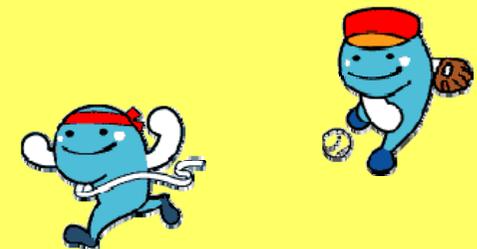
※D3層の生徒の割合：学習内容が十分定着しておらず、進学や就職の際に困難が生じることが予測される生徒の割合

徳

- 生徒指導上の諸問題の状況を全国平均まで改善する
 - ※H26児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果
 - ・暴力行為発生件数（千人当たり）：8.2件（全国4.0件）
 - ・不登校児童生徒数（千人当たり）
 - 小中15.5件(全国12.1件) 高校18.7件(全国15.9件)
 - ・中途退学率：2.1%(全国1.5%)
- 児童生徒の道徳性意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る
 - ※H27全国学力・学習状況調査結果（肯定的回答の割合（）は全国平均との差）
 - 「自分には、よいところがあると思う」
 - 小：77.3（+0.9）中：69.4（+1.3）
 - 「将来の夢や目標を持っている」
 - 小：86.1（-0.4）中：73.1（+1.4）
 - 「学校のきまりを守っている」
 - 小：91.2（+0.1）中：93.8（-0.6） など

体

- 小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる
 - ※H27全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（数値はT得点(全国平均=50)）
 - 小学校：男子50.1 女子50.4
 - 中学校：男子49.8 女子48.4



基本目標

基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

1

チーム学校の構築

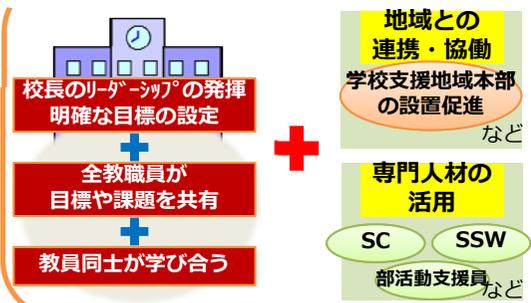
厳しい環境にある子どもたちへの支援

地域との連携・協働

就学前教育の充実

生涯学び続ける環境づくり

本県におけるチーム学校の仕組み



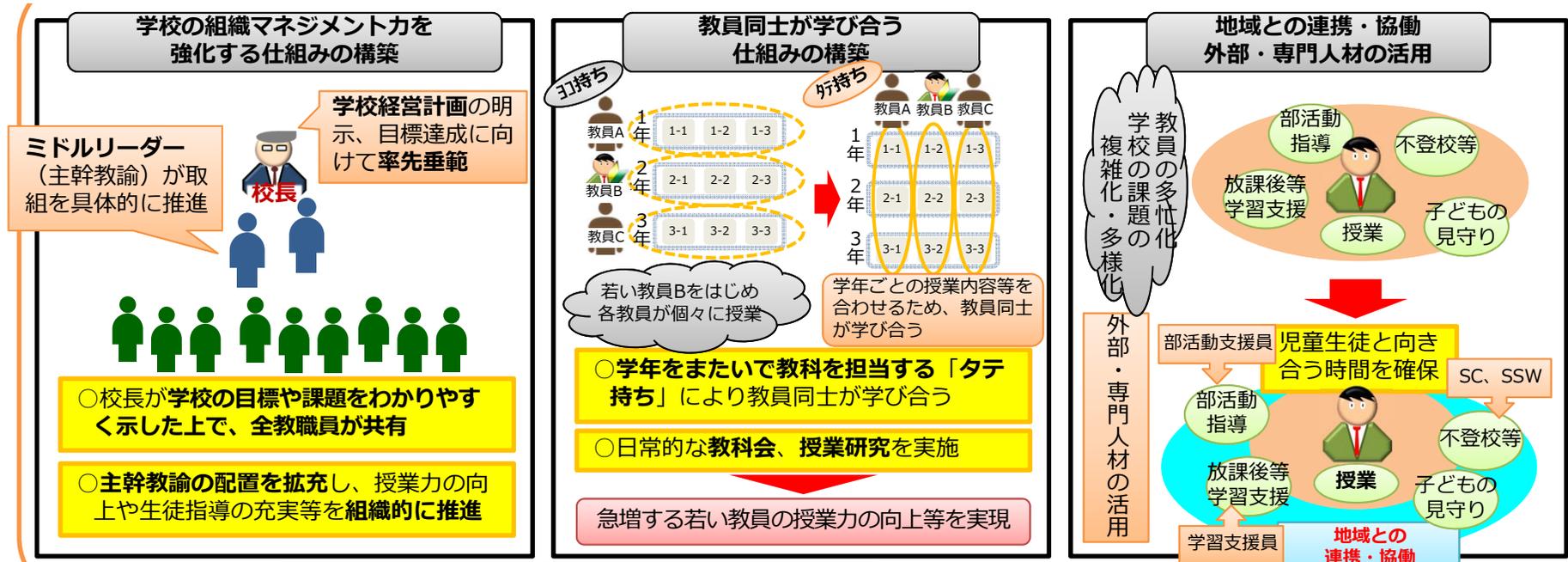
- 個々の教員の力量のみに頼らず、**教員同士がチームを組んで主体的に学び合うことにより組織的に授業力の向上や生徒指導の充実などを図る**
- 外部の専門家や地域の人材の力も活用**して、学校の目標の実現や課題の解決を図る

チーム学校の必要性

- 課題への対応が個々の教員により対症的に行われることが多く、**組織としての取組が弱い**
- 日々の授業や生徒指導が個々の教員に任されており、教員同士が連携した授業力の向上や生徒指導の充実に向けた取組が十分でない
- 学校の課題が多様化・複雑化する中で、教員の専門性だけでは対応に限界がある
- 学校や教員に求められる役割が増加する中で、**教員の多忙化により児童生徒と向き合う時間の確保に支障が生じている**

チーム学校の構築に向けた学校・教員の主体的な取組を教育行政が徹底してサポート

主な施策



※SC : スクールカウンセラー SSW : スクールソーシャルワーカー

基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

1

チーム学校の構築

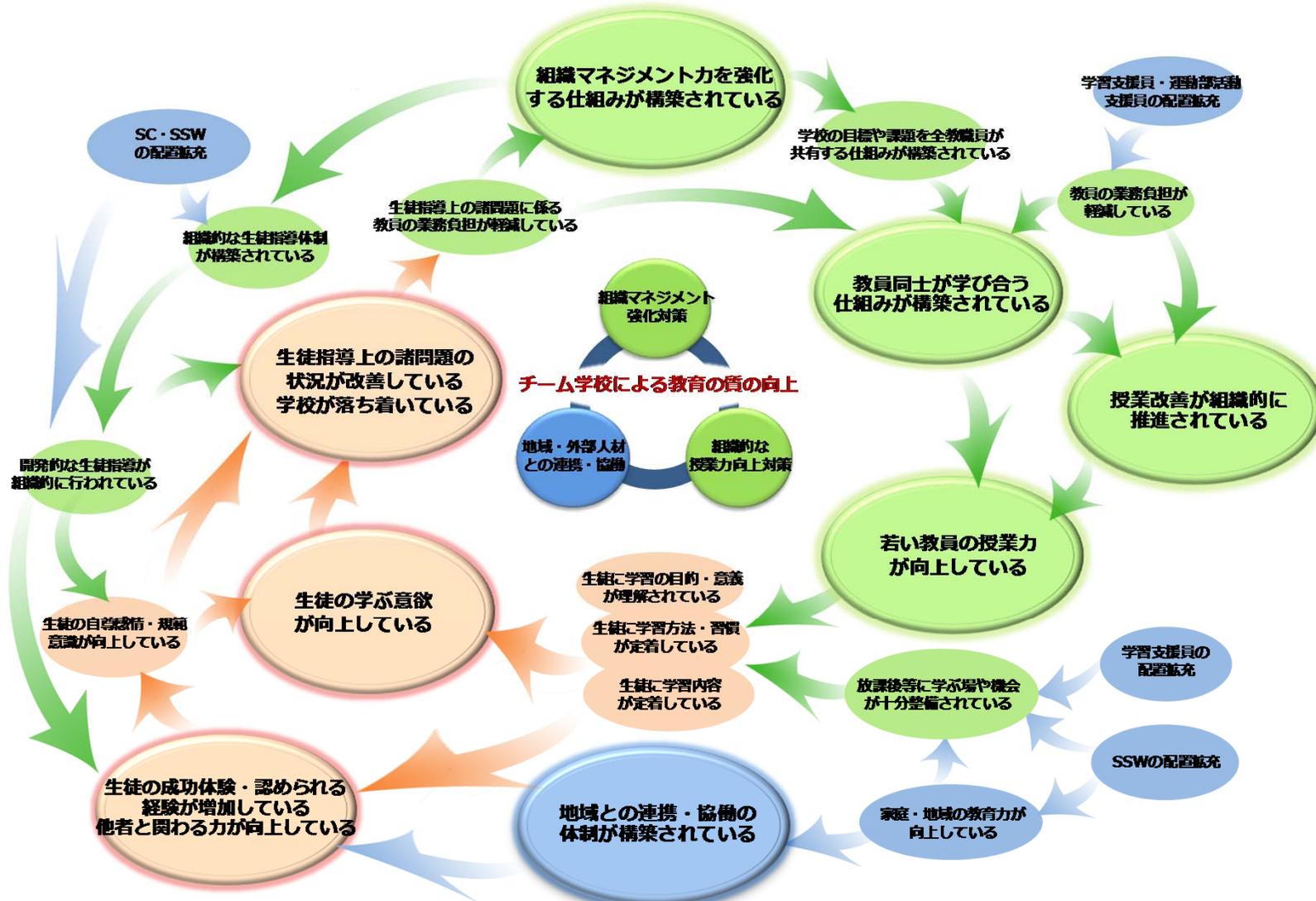
厳しい環境にある
子どもたちへの支援

地域との連携・協働

就学前教育の充実

生涯学び続ける
環境づくり

チーム学校の構築による学力向上等の好循環の実現



基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

チーム学校の構築

2

厳しい環境にある
子どもたちへの支援

地域との連携・協働

就学前教育の充実

生涯学び続ける
環境づくり

厳しい環境にある子どもたちへの支援が求められる背景

- 我が国の大きな社会問題である子どもの貧困は本県においては更に深刻
- 家庭における生活の困窮や教育力の低下、地域における見守り機能の低下

- 多くの子どもたちが、**学力の未定着**をはじめ、いじめや不登校、虐待や非行といった困難な状況に直面
- 家庭の経済状況と子どもの学力には相関関係があり、貧困の世代間連鎖が危惧される状況

全ての子どもたちが家庭の経済状況などに左右されることなく
夢や希望を持ち続け育つ環境の実現が必要

厳しい環境にある子どもたちの貧困の世代間連鎖を教育によって断ち切ることを目指す

- 就学前は保護者の子育て力の向上などに重点的に取り組む
- 就学後は子どもたちに対する知・徳・体の向上に向けた取組を徹底する

- 地域ぐるみで子どもや家庭を支えていくため、学校と地域との連携・協働の体制を県内全域で構築する

主な施策 ～就学前から高等学校までの各段階に応じて切れ目のない対策を実施～

就学前

保育者の親育ち支援力の強化

- ・管理職を中心にチームとして親育ち支援を推進
- ・親育ち支援研修の充実、中核保育者の育成

保護者の子育て力の向上

- ・保護者向けの講話等の実施、参加の促進

園と家庭・地域の連携充実

- ・コーディネーターや加配保育士の配置拡充による個別支援の充実
- ・SSWの活用による就学前の子どもや家庭への支援の実施

小・中・高等学校

知

放課後等における学習の場の充実

- ・学習支援員の配置拡充による学習支援の充実
- ・放課後児童クラブや放課後子ども教室における学習活動の充実

学びの場へのいざない

- ・SSWによるきめ細かな支援の実施、学びの場への参加促進

徳

地域全体で子どもを見守る体制づくり

- ・学校支援地域本部の設置促進・見守り活動等の充実
- ・放課後児童クラブ等の安全・安心な居場所の確保

専門人材・専門機関との連携強化

- ・SC、SSWの配置拡充
- ・「心の教育センター」に一元的な教育相談支援体制を構築、関係機関との連携強化

体

保護者に対する啓発の強化

- ・SC、SSWによる生活環境改善に向けた相談支援体制の充実
- ・健康教育を通じた生活習慣の定着促進

欠食がみられる子どもへの支援

- ・SC、SSWとの連携による子どもや家庭の状況の把握
- ・福祉部門との連携・協働

基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

チーム学校の構築

厳しい環境にある
子どもたちへの支援

3
地域との連携・協働

就学前教育の充実

生涯学び続ける
環境づくり

地域との連携・協働が求められる背景

○家庭や地域の教育力は、核家族化や地域コミュニティの希薄化などに伴い低下

○子どもたちに関わる課題は複雑化・多様化しており、その支援については、学校にプラットフォームとしての役割が期待されているものの、学校だけの対応には限界

- 地域の方々にも子どもたちのことを知ってもらい、子どもたちも地域の方々を知っているという関係をつくりながら、地域と学校とが力を合わせて子どもたちを支えていくことが重要
- 特にチーム学校の構築、厳しい環境にある子どもたちの支援には地域との連携・協働が不可欠

主な施策

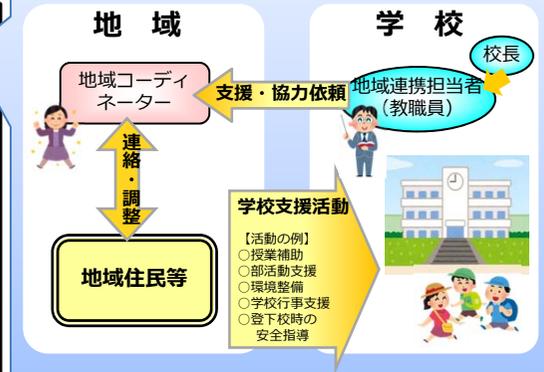
地域との連携・協働による 学校を支える体制づくり

学校支援地域本部
の設置促進・活動充実

- ・学校内で地域との連絡調整を担う担当者を明確化
- ・地域において中核的な役割を果たす地域コーディネーターを育成・確保

全ての学校で地域と連携・協働する体制が構築されることを目指す

学校と地域との連携・協働のあり方



地域人材の
発掘・登録・マッチング

地域との連携・協働による 放課後等の居場所づくり

放課後児童クラブ、放課後子ども教室
の設置促進・活動充実

- ・放課後児童支援員等を対象とした研修
- ・放課後児童クラブの開設時間の延長、利用料の減免

安全・安心な居場所の確保
学びの場の充実
を目指す

規範意識、自尊感情、コミュニケーション能力、学習習慣の定着 等

基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

チーム学校の構築

厳しい環境にある
子どもたちへの支援

地域との連携・協働

4

就学前教育の充実

生涯学び続ける
環境づくり

就学前教育の充実の必要性

○子どもたちの知・徳・体の調和のとれた健全な成長のためには、生涯にわたる**人格形成の基礎を培う重要な時期**である乳幼児期に、**質の高い教育・保育を受けることが重要**

○県内の保育所・幼稚園等では、専門的で高度な知見に基づいた質の高い教育・保育の実践がまだ十分ではない

○就学前と小学校との教育内容の違いに適應できないことなどを原因とした小1プロブレムも発生

主な施策 ～県内どこにいても質の高い教育・保育を受けることができる環境づくり～

保育所保育指針・幼稚園教育要領等に沿った指導方法の確立

・具体的な教育・保育の指導方法等を示すガイドラインの策定と園における実践

教育・保育の質の向上

組織マネジメント力の強化

・幼保支援アドバイザーによる訪問指導等の充実
・園内研修・地域ブロック研修の充実

キャリアステージに応じた保育者の資質・指導力の強化

・初任者・中堅者・管理職ごとの研修の内容充実
・研修参加のための代替保育者の確保への支援

保幼小の円滑な接続の推進

・市町村の接続期カリキュラムの作成促進・実践支援
▶モデルとなる県版接続期カリキュラムの作成

▶指導主事の訪問・指導による市町村の接続期カリキュラムに基づく円滑な接続の支援



発達障害等のある乳幼児への専門的な指導・支援の充実

・保育者の発達障害等に対する理解を深める研修等の実施
・一人一人の子どもに対応した指導計画作成への支援
・引き継ぎシートなどの活用による小学校への引き継ぎの徹底

基本理念を実現するための取組の方向性と主な施策

チーム学校の構築

厳しい環境にある
子どもたちへの支援

地域との連携・協働

就学前教育の充実

5

生涯学び続ける
環境づくり

生涯学び続ける環境づくりが求められる背景

- 社会・経済の急速な変化
- 個人の生き方の多様化

- 県民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるようにするには、**誰もが生涯にわたって学び続けられる環境や、スポーツ等に親しめる環境の整備が重要**
- 個人の学びの成果がさまざまな場面で発揮されることで、**地域や社会に好影響がもたらされる**

施策の基本方向と主な施策

生涯にわたって学び続ける環境をつくる



生涯学習の推進体制の再構築
新図書館等複合施設を核とした県民の読書環境・情報環境の充実 / 子どもも大人も学び合う地域づくり



文化財の保存・活用を図る

高知城の保存管理と整備の推進 / 文化財の保存と活用の推進
埋蔵文化財の発掘調査・保護の推進

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を好機と捉えスポーツの振興を図る

子どもの運動・スポーツ活動の充実 / 競技力の向上 / 地域における運動・スポーツ活動の活性化
障害者スポーツの充実 / スポーツ施設・設備の整備

第3章 基本理念と基本目標

1 基本理念 ～目指すべき人間像～

(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち

グローバル化や情報化、少子・高齢化が急速に進むなど、社会・経済が激しく変化する時代に生まれた子どもたちが、これからの時代を自らの力で力強く生き抜き、自らの夢に向かって羽ばたくようにするためには、知・徳・体の調和のとれた生きる力を育てていくことが必要です。

<知・徳・体の育成すべき力>

- ◆知：基礎的・基本的な知識・技能やこれらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、生涯にわたって学び続ける意欲
- ◆徳：社会の中で多様な人々と互いに尊重し合い、協働し、社会に参画しながら人としてよりよく生きていくための基礎となる、他者への思いやりや規範意識、公共の精神などの豊かな人間性・道徳性
- ◆体：生涯にわたってたくましく生き抜いていくための基礎となる、体力や健康的な生活習慣

こうした知・徳・体の調和がとれた、自らの人生を切り拓き主体的に生きる力を、家庭の保護者や地域、学校、市町村教育委員会、県教育委員会などが、それぞれの役割や責任を意識しながら力を合わせ、社会全体で子どもたちに身に付けさせていかなければなりません。

このため、1つ目の基本理念を「**学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち**」の育成とします。

(2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材

我が国では、先の見えない変化の激しい時代の中で、課題に挑戦し、未来を切り拓く人材が求められています。

特に少子・高齢化が著しい本県が今後も活力を維持・向上していくためには、郷土への愛着と誇りを大切にしながら、グローバルな視点を持ち、高い志を掲げ、産業・経済や地域福祉、さらには、文化、コミュニティなど多くの分野で地域の将来を担う人材が求められています。

このため、「**郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材**」の育成を2つ目の基本理念とします。

2 基本目標

基本理念の実現に向けた第4章の「取組の方向性と施策の基本方向」に基づく取組の基本目標として、下記の数値目標を設定し、PDCAサイクルに基づく進捗管理を徹底します。

(1) 知の分野の基本目標

①小・中学校

- 小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す。中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

※H27年度全国学力・学習状況調査結果（数値は全国平均正答率との差）

小学校：国語A +3.4 国語B +1.6 算数A +1.8 算数B -0.4

中学校：国語A -2.5 国語B -2.9 数学A -4.5 数学B -5.4

②高等学校

- 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる

※H27年度学力定着把握検査結果（高校3年生4月）：30.4%

- 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする

※H26年度卒業生に占める進路未定者の割合：8.0%

(2) 徳の分野の基本目標

- 生徒指導上の諸問題（不登校、暴力行為、中途退学）の状況を全国平均まで改善する

※平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果

・暴力行為発生件数 千人あたり発生件数：8.2件（全国4.0件）

・不登校児童生徒数 千人あたり不登校数：小中15.5件（全国12.1件）

：高校18.7件（全国15.9件）

・中途退学率：2.1%（全国1.5%）

- 全国学力・学習状況調査における児童生徒の道徳性（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神等）意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る

※H27年度全国学力・学習状況調査結果（各質問に対し肯定的な回答をした児童生徒の割合。（ ）は全国平均との差）

「自分には、よいところがあると思う」

小学校：77.3（+0.9） 中学校：69.4（+1.3）

「将来の夢や目標を持っている」

小学校：86.1（-0.4） 中学校：73.1（+1.4）

「学校のきまりを守っている」

小学校：91.2（+0.1） 中学校：93.8（-0.6）

「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」

小学校：94.1（-0.4） 中学校：94.1（-0.1）

「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」

小学校：97.0（+0.8） 中学校：94.4（+0.7）

「人の役に立つ人間になりたいと思う」

小学校：94.4（+0.7） 中学校：93.9（+0.2）

(3) 体の分野の基本目標

- 小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる

※平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果(数値はT 得点(全国平均=50))

小学校：男子 50.1 女子 50.4

中学校：男子 49.8 女子 48.4

第4章 取組の方向性と施策の基本方向

5つの取組の方向性

- (1) チーム学校の構築
- (2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援
- (3) 地域との連携・協働
- (4) 就学前教育の充実
- (5) 生涯学び続ける環境づくり

1 取組の方向性

第3章の基本理念や基本目標を実現していくためには、家庭や地域、学校、教育行政など、教育等に携わる全ての人や組織が、それぞれの役割や責任を認識した上で、力を合わせて子どもたちを育成していくことが必要です。

このため、教育等に携わる全ての人に日常的に意識していただくための取組の方向性として、下記の5つを定めます。

(1) チーム学校の構築

社会・経済が大きく変化し、学校を取り巻く課題も多様化・複雑化している中で、本県の子どもたちの知・徳・体を向上させていくためには、

- ・学校組織が少数の管理職と多数の教職員で構成されているため、課題への対応が個々の教職員により対症療法的に行われることが多く、組織としての取組が弱いこと
- ・日々の授業や生徒指導が個々の教員に任されており、教員同士が連携した授業力の向上や生徒指導の充実に向けた取組が十分でないこと
- ・学校の課題が多様化・複雑化する中で、教員の専門性だけでは対応に限界があること
- ・学校や教員に求められる役割が増加する中で、教員の多忙化により児童生徒と向き合う時間の確保に支障が生じていること

などの学校が抱える課題の解決に向けた取組を推進していくことが必要です。

こうした課題の解決に向けた取組として、学校の組織力を高めながら、個々の教員の力量のみに頼らず、教員同士がチームを組んで主体的に学び合うことにより組織的に授業力の向上や生徒指導の充実などを図るとともに、外部の専門家や地域の人材の力も活用して、学校の目標の実現や課題の解決を図る、「**チーム学校の構築**」を推進していきます。

また、県教育委員会や市町村教育委員会などの教育行政は、県全域や地域の教育の課題を踏まえ、「チーム学校の構築」をはじめとする課題解決のための対策をきちんと学校や教員に示し、効果的・効率的に対策が実施されるよう学校や教員を支えていくことが必要です。

(2) 厳しい環境にある子どもたちへの支援

我が国において大きな社会問題となっている子どもの貧困は、本県においては更に深刻であり、こうしたことを背景に、多くの子どもたちが虐待や学力の未定着、不登校といった困難な状況に直面しています。

このため、就学前には保護者の子育て力の向上などを重点的に支援するとともに、就学後は学校をプラットフォームとして小学校から高等学校までの各段階に応じて切れ目のない対策を講じるなど、貧困の世代間連鎖を教育の力で断ち切ることを目指して、「**厳しい環境にある子どもたちへの支援**」を徹底します。

(3) 地域との連携・協働

従来、子どもたちの成長を支えていた家庭や地域の教育力は、核家族化や地域コミュニティの希薄化などに伴い低下しています。

他方で、子どもたちに関わる課題は多様化・複雑化しており、特に、家庭の貧困など厳しい環境にある子どもたちへの支援については、学校にプラットフォームとしての役割が期待されているものの、学校だけでの対応には限界があります。このため、地域の方々にも子どもたちのことを知ってもらい、子どもたちも地域の方々を知っているという関係をつくりながら、地域と学校とが力を合わせて子どもたちを支え、育んでいただくことがますます求められてきています。

こうしたことから、学校と地域との連携を後押しするために、家庭・地域・学校が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる仕組みである学校支援地域本部の設置促進や活動の充実など、学校と「**地域との連携・協働**」を積極的に進めます。

(4) 就学前教育の充実

子どもたちの知・徳・体の調和のとれた健全な成長のためには、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期である乳幼児期に、質の高い教育・保育を受けることが重要です。

このため、専門的で高度な知見に基づいた質の高い教育・保育の実践や、小学校以降の教育への接続を意識した取組の充実・強化など、「**就学前教育の充実**」を図ります。

(5) 生涯学び続ける環境づくり

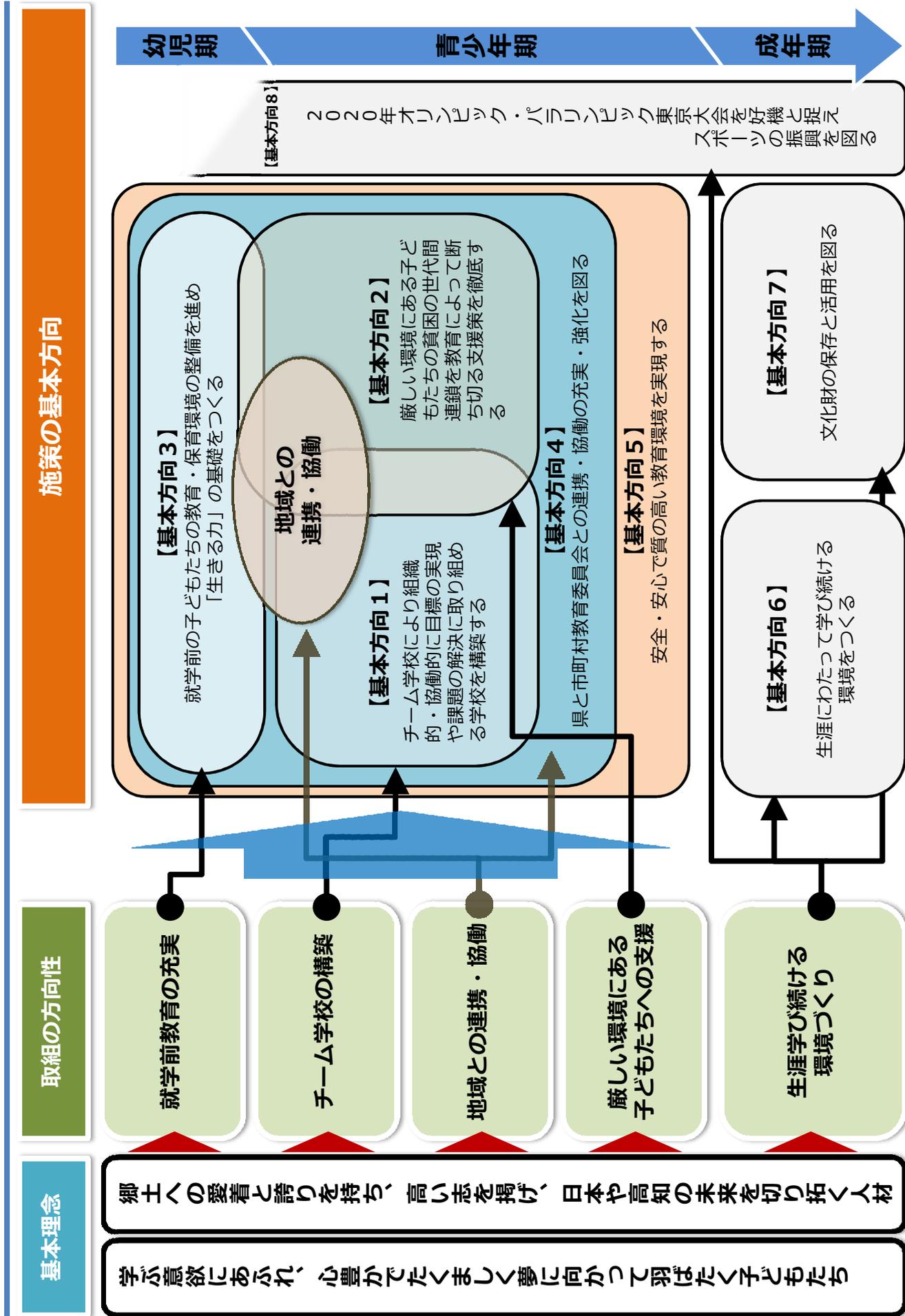
社会・経済が急速に変化していくとともに、個人の生き方も多様化している中で、県民一人一人が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるようにするには、誰もが生涯にわたって学び続けられる環境や、スポーツ等に親しめる環境を整備していくことが重要です。また、個人の学びの成果がさまざまな場面で発揮されることで、地域や社会に好影響がもたらされます。

こうした方向に沿って、「**生涯学び続ける環境づくり**」を推進します。

この5つの取組の方向性と「2 施策の基本方向」に掲げる8つの施策の基本方向に基づき具体的な取組を展開していきます。

5つの取組の方向性と8つの施策の基本方向との関係性は次ページの図のとおりです。

基本理念（目指すべき人間像）の実現に向けた取組の方向性・施策の基本方向【体系図】



| 事業名称【担当課】 | 現状・課題 | 事業概要 |
|--|--|--|
| 高知「志」教師塾 (次世代のリーダー育成研修) 【教育センター】 | <ul style="list-style-type: none"> ◆中堅層の教員を対象にした意図的・計画的なリーダーの育成が不十分である。また、そのための育成システムも十分に構築されていない。 ◆激動する社会に対応しリーダー性を発揮できる人材には「時代を見る先見性」、「変革に挑む積極性」、「人間的魅力」の資質が不可欠であり、これらを育成するには、早い段階からその素地を培っていく必要がある。 | <p>本県教育のレベルをもう一段上げるために、10年経験者研修を修了した中堅層の教諭等の中から人材を選抜し、現代の学校経営課題や教育課題、人の生き方・在り方に関する研修を通して、次世代のリーダーを意図的・計画的に育成する。</p> <p>※年間12名、5年間で60人を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集合研修 各界のトップリーダーの講演や事前の課題図書熟読による座談会等を行う。 ◆宿泊研修 異業種交流や外国人とのディベート、トップ企業訪問等を行う。 ◆フォローアップ研修(卒業生対象) 卒業生を対象に、当該年度で招へいしていない講師の講義を行う。 |

| 実施計画 | | | | 目指すべき姿(到達目標) |
|--|-----|-----|---|--|
| H28 | H29 | H30 | H31 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆集合研修 ◇5日間実施 ・リーダーシップ研修(人間的魅力の涵養) ・メガトレンド研修(時代を見る先見性の育成) | | | <ul style="list-style-type: none"> ◆集合研修の実施(H31) ・5年間の塾生全員を対象 ・実践発表、講演、情報交換等 | <ul style="list-style-type: none"> ◆学校力を高めるための高度なマネジメント力を持ち、それを十分に発揮できる次世代のリーダーが育成されている。 ・研修終了から1年後に、自己変容があったと回答する受講者の割合:60%以上 ・研修終了後、5年以内に教頭(指導主事等も含む)に登用された受講者の割合:50%以上 |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆宿泊研修 ◇2泊3日で実施 ・リレーションシップ研修(変革に挑む積極性の醸成) | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆フォローアップ研修 ◇卒業生を対象に年間2回程度実施 ・後進のメンター | | | | |
| | | | | |

1-(2) 地域との連携・協働の推進

| 事業名称【担当課】 | 現状・課題 | 事業概要 |
|----------------------------|--|---|
| 学校支援地域本部等事業 【生涯学習課】 | <ul style="list-style-type: none"> ◆家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、学校と地域が連携・協働し、地域全体で子どもたちを見守り育てる体制づくりを、更に積極的に進めていく必要がある。 ◆平成27年4月時点で22市町村40本部85校に学校支援地域本部が設置されており、取組は全市町村に拡がりつつある。 ◆市町村や学校によって活動内容に差がある。学習活動や学校行事への支援など様々な活動が数多く行われ、多くの住民が子どもたちを見守る体制をつくるためには、学校側及び地域側において、連絡調整等について中核的な役割を担う人材を配置・確保するなどの体制を整える必要がある。 ◆学校をプラットフォームとして厳しい環境にある子どもたちを支えるためには、活動に携わる方々が子どもたちの現状に対する知識・理解を深めるとともに、福祉関係機関との連携を促進し、見守り機能の強化を図る必要がある。 ◆過疎化や高齢化の中で、人材の確保が難しい地域がある。 | <p>学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもたちを見守り育てる体制づくりを推進するために、学校支援地域本部の設置促進及び活動内容の充実等に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学校支援地域本部の設置促進及び活動内容の充実 学校地域連携推進担当指導主事を中心に、学校支援地域本部の設置拡大に取り組む。併せて、活動内容の一層の充実に向けて、学校側及び地域側の推進体制の整備や、年度計画の作成・進捗管理、事例集による情報共有、福祉機関との連携などの取組を促進する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><主な活動事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援、部活動支援 ・ゲストティーチャーによる授業補助 ・学校行事支援、地域行事への参加 ・読み聞かせ ・校内の清掃活動など環境整備 ・登下校の安全指導、見守り </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆学び場人材バンクによる支援 ボランティアや地域コーディネーター等の地域人材の発掘・確保及びマッチングを行う学び場人材バンク事業の実施とともに、事業の周知広報を積極的に行う。 |

| 実施計画 | | | | 到達目標 |
|---|-----|-----|--|------|
| H28 | H29 | H30 | H31 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆学校支援地域本部の設置促進及び活動内容の充実 ◇学校地域連携推進担当指導主事(東部・中部・西部教育事務所及び高知市各1名)を中心とした支援 ・学校や地域の状況に応じた助言等 ・年度計画の作成と進捗管理 ・学校側の連携担当者の明確化 ・地域コーディネーターの確保 ・福祉関係機関との連携促進 ◇取組状況の把握と情報提供 ・取組状況調査の実施 ・運用手引を含む事例集の作成・配布 | | | <ul style="list-style-type: none"> ◆学校や地域の実情に応じて、地域の方が学校の様々な活動に参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる仕組みが構築されている。 ◆各学校支援地域本部において、充実した様々な活動が活発に実施されている。 ・学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の方が様々な活動に参画してくれる学校の割合 小学校:100%(H27:77.7%) 中学校:100%(H27:61.5%) ・学校支援地域本部における学習支援、登下校安全指導、環境整備等の学校支援活動回数 15,000回以上(H26:8,768回) ・学校支援地域本部が設置された学校数 小学校:150校以上(H27:53校) 中学校:80校以上(H27:28校) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆学び場人材バンクによる支援 ◇学び場人材バンクの運営(委託) ・地域の核となる人材の発掘・登録 ・市町村や学校等のニーズに合わせたマッチング | | | | |
| | | | | |